

資料 2 - 4

(代表事例)

平成 2 3 年度

森林整備事業における  
事前評価結果 (案)  
(代表事例)

事前評価個表

整理番号	2
------	---

地域（地区）名	上川北部地域	事業名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	北海道	対象市町村	和寒町ほか7市町村
事業実施期間	H23～H27（5年間）	事業実施主体	道、市町村、森林組合、森林所有者等

事業の概要・目的	<p>上川北部森林計画区は、北海道の中央からやや北に位置し、名寄盆地を中心に東部には北見山地、西部には天塩山地とその支脈に囲まれ、中央には天塩岳を源とする天塩川が縦断しており、豊かな自然を形成している。</p> <p>本計画区の総面積419,740haのうち、森林面積は324,772ha（森林率77%）であり、その内訳は国有林162,723ha、道有林81,586ha、その他一般民有林80,463haとなっている。また、計画区内の林道延長は417,000mで公道等を含む林内道路密度は9.0m/haとなっており、このほかに林道の支線としての作業道が整備されている。</p> <p>一般民有林は、カラマツ、トドマツを主体とした人工林が32,698ha（人工林率41%）であり、うち63%がⅦ齢級以下の若齢級で、適正な保育・間伐を必要とする林齢にあるが、近年の木材価格の低迷と林業従事者の高齢化や不況等から手入れが不十分な森林が見られるようになってきた。</p> <p>このため、上川北部地域森林環境保全整備事業計画を作成し、これに基づく森林整備及び路網整備を推進する必要がある。</p> <p>本計画に基づき、森林の配置や齢級構成に応じ森林整備や路網整備を行うことによって、森林の有する多面的機能の発揮が可能となる。また、これらの整備に関する地元関係者の意欲は高く、コスト縮減を踏まえて実施することとしている。</p> <p>なお、他産業との連携等に関しては、農耕地の多くが森林に近接していることから、農林業の振興、農林道の整備において関係部局等との連携を図っている。</p>
事業内容・事業費	<p>森林整備：21,050ha 人工造林、樹下植栽等、下刈り、枝打ち、除伐、間伐等</p> <p>路網整備：3,600m 林業専用道開設</p> <p>総事業費：3,982,965千円</p>
費用対効果分析結果	B/C = 4.54
評価結果	<p>必要性：保育対象林分の賦存状況、森林の整備の緊急性等から見て必要性が高い。</p> <p>効率性：投下する費用を上回る効果が見込まれることから、事業の効率性が認められる。</p> <p>有効性：健全な森林づくり等によって水源かん養、国土保全等の機能の確保に加え、将来の優良材の安定的な生産の上で有効である。</p> <p>本計画では、森林の多面的機能を発揮するために必要な森林整備と路網整備が適切に計画されている。</p> <p>また、効率性、有効性も十分に認められることから、森林環境保全整備事業計画として実施することが適当である。</p>

整理番号

2

## 便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名: 森林環境保全整備事業  
 地域名: 上川北部

北海道  
 (単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	9,285,219	
	流域貯水便益	3,233,700	
	水質浄化便益	5,525,219	
山地保全便益	土砂流出防止便益	16,393,555	
環境保全便益	炭素固定便益	2,431,750	
木材生産便益	木材生産確保・促進便益	2,139,816	
森林整備経費縮減等便益	森林整備促進便益	126,825	
総 便 益 (B)		39,136,084	
総 費 用 (C)		8,616,587	
費用便益比	$B \div C = \frac{39,136,084}{8,616,587} = 4.54$		

